

手賀沼通信(第339号)

Eメール: nittay@jcom.home.ne.jp
http://jfn.josuikai.net/semi/koyukai

http://ynitta.cocolog-nifty.com/blog/
http://tegatu2.web.fc2.com

新田良昭

今月は昨年12月号に続いて、手賀沼通信ブログから、プロ野球の歴史シリーズをまとめました。

手賀沼通信ブログ抜粋ープロ野球の歴史シリーズ その2

プロ野球の歴史ー6 2リーグ時代初期の3 人の大投手(No. 1873)(2025年1 月9日)

歴史上、数多くの大投手が生まれています。ここでは2リーグ時代初期のころに活躍した3人の大投手を取り上げます。

金田正一投手、稲尾和久投手、杉下茂投手です。同時期にはほかにも大投手と言われた選手がいましたが、この3人は私の印象に強く残っているという理由で取り上げました。

金田正一

通算400勝を挙げた唯一の投手です。

1933年生まれ、1950年に享栄商業を中退して17歳で国鉄(現ヤクルト)スワローズに入団しました。1965年に巨人に移籍、1969年に引退しています。

400勝のほかに、14年連続20勝以上、奪三振通算4490個、最多奪三振10回、64イニング1/3の連続イニング無失点、沢村賞連続3回などの日本記録を持っています。ノーヒット・ノーランを史上最年少の18歳で達成、完全試合も成し遂げています。200勝には史上最年少の24歳で達成しました。

1958年には巨人に入団した新人の長嶋茂雄と初対戦し、4打席連続三振に打ち取りました。

1965年には巨人に移籍、全盛期を過ぎていたので、引退する1969年までに47勝しか挙げられませんでした。

しかし金田の存在が巨人選手の意識改革に大い

に役立ちました。今でも覚えているのは、スプリングキャンプに自分で持ち込んだ食材で「金田なべ」を作り選手に食べさせて、野球に適した体力づくりを凶ったことです。当時はコレステロールなどという言葉はあまり知られていませんでしたが、金田投手はそれをみんなに意識させていたようです。

引退後、200勝以上の投手と2000本安打以上の野手が入会できる「名球会」を作り、初代会長を務めました。

稲尾和久

1958年の日本シリーズで西鉄ライオンズが巨人に3連敗した後4連勝した時の活躍で世間の注目を浴びました。稲尾投手は4連投で4連勝し、「神様、仏様、稲尾様」と言われました。

1937年生まれ、大分県立別府緑が丘高校という野球では名の知られていない高校から1956年に西鉄ライオンズに入団しました。1969年に引退するまで、ライオンズ一筋でした。

1961年には年間42勝を挙げました。この記録はスタルヒンと年間最多タイ記録となっています。

通算では276勝を挙げています。MVP2回、8年連続20勝以上、日本シリーズ最多通算11勝のタイ記録なども残しています。

杉下茂

「フォークボールの神様」と言われた投手です。プロ野球が生まれたころは、投手の投げる球はストレートとカーブとドロップ(タテに落ちるカーブ)でした。巨人の藤本英雄がスライダーを持ち込みましたが、フォークを投げ始めたのが杉下茂でした。

1925年生まれ、明治大学旧専門部を卒業し、1949年に2リーグ誕生前の中日ドラゴンズに入団しました。1960年まで中日で活躍し、1961年毎日大映オリオンズに移籍してその年引退しています。通算215勝、沢村賞3回、MVP1回、最多勝と最多奪三振を各2回とっていま

す。

杉下投手のフォークは今のナックルボールに近い球で、キャッチャーがとるのも苦労したようです。今の投手はフォークを多投しますが、杉下投手はフォークを神様用のボールとして1試合に5～6球しか投げなかったようです。それでも打者はいつ来るかわからず苦労したようです。

プロ野球の歴史ー7 初期の5人の強打者 (NO. 1874) (2025年1月15日)

プロ野球2リーグ誕生の前後に活躍した5人の強打者です。5人に絞ったのはあくまで私の独断です。お許しください。年齢順に並べてみます。

藤村富美男

1916年生まれ、呉港中学卒業、1936年から1958年まで戦争を挟んで通算17年、大阪タイガース一筋で活躍しました。

初代「ミスタータイガース」としてダイナマイト打線の不動の4番打者でした。普通のバットより8センチ長い通称「物干し竿」を駆使したことで有名です。闘志むき出しのプレースタイルで「阿修羅の藤村」とも言われました。

- ・首位打者 1回 通算打率 3割ちょうど
- ・ホームラン王 2回 生涯 224本
- ・打点王 5回
- ・MVP 1回

入団当初8年間は二刀流で投手として34勝を挙げています。

川上哲治

1920年生まれ、熊本工業では投手として甲子園で2度準優勝しています。1938年東京巨人軍入団、プロ入り後打者に転向、1958年まで通算18年ジャイアンツ一筋で活躍

- ・首位打者 5回 通算打率 3割1分3厘 (歴代2位)
- ・ホームラン王 2回 生涯 181本
- ・打点王 3回
- ・MVP 3回

2000本安打を達成したのは川上選手が初めて、通算2351本の安打を放っています。

大下弘

1922年生まれ、明治大学卒業、1946年から1959年まで、東急セネターズで6年と西鉄ライオンズで8年、通算14年活躍しました。

「青バットの天下」「ポンちゃん」と言われ、ハンサムだったため女性に人気のある選手でした。

- ・首位打者 3回
- ・ホームラン王 3回 生涯201本
- ・MVP 1回

青田昇

滝川中学中退、1942年から1959年まで通算16年、ジャイアンツ、阪急ブレーブス、大洋ホエールズで活躍しました。

プレースタイルと奔放な言動で、通称「ジャジャ馬」と言われました。

- ・首位打者 1回 通算 2割7分8厘
- ・ホームラン王 5回 生涯 265本
- ・打点王 2回

中西太

1933年生まれ、高松第一高校卒業、1952年から1969年まで通算18年ライオンズ一筋でした。上記の4人が戦前や1リーグ時代の入団ですが、中西選手は2リーグ誕生後の入団です。

通称「怪童」と呼ばれました。

- ・首位打者 2回 通算 3割7厘
- ・ホームラン王 5回 生涯 244本
- ・打点王 3回
- ・MVP 1回

現役引退後9球団の監督やコーチを務め、多くの名選手を育てた「名伯楽」として有名です。

プロ野球の歴史ー8 長嶋と王 (NO. 1879) (2025年2月12日)

今回は文化勲章の長嶋茂雄選手と国民栄誉賞の第1号の王貞治選手の登場です。

長嶋選手は1936年生まれ、王選手は1940年生まれ、私は1937年生まれですので、両選手は兄と弟のような年齢です。同世代に生まれた幸せを感じながら両選手の活躍を見てきました。

まずは両選手の主な成績を見てみましょう。

	長嶋茂雄	王貞治
・出身校	立教大学	早稲田実業
・巨人入団	1958年	1959年
・引退	1974年	1980年
・現役年	17年	22年
・通算打率	.305	.301
・通算安打	2471本	2786本
・首位打者	6回	5回

- ・通算本塁打 444本 868本
- ・本塁打王 2回 15回
- ・通算打点 1522点 2170点
- ・打点王 5回 13回
- ・MVP 5回 9回
- ・リーグ優勝 13回 14回
- ・日本一 11回 11回

長嶋選手は常に観客を喜ばせることを心がけていました。大一番になると大活躍です。打ってほしいと思う時に打ちました。

王選手が日本シリーズMVP 1回に対し、長嶋選手は4回受賞しています。開幕試合本塁打10本や公式戦・オールスター・日本シリーズ全てで通算打率3割以上や皇室観戦試合の打率.514と本塁打7本などは史上唯一の記録となっています。

見せる守備や派手な空振りなどでも観衆を沸かせました。

私が忘れられない場面を3つ選ぶとすれば、巨人に入団した年の開幕戦で国鉄の金田正一投手に4連続三振したこと、入団2年目の天皇陛下と皇后陛下の天覧試合で阪神の村山実投手からサヨナラホームランを打ったこと、1974年の引退試合の後のスピーチで「我が巨人軍は永久に不滅です」と言ったことです。

王選手はホームラン868本の世界記録で「世界の王」になりました。セリーグ初の三冠王を含めて2回の三冠王を取りました。通算四球2390個、通算敬遠四球427という史上最高記録も残しています。

王選手の忘れられない3つの場面は次の場面です。打撃不振で悩んでいた時、荒川コーチの指導の下、天井からつるした紙をバット代わりの日本刀で切るという練習です。ここから一本足打法が生まれました。

2つ目は1971年の日本シリーズ第3戦で阪急の山田久志に完ぺきに抑えられ敗戦寸前だった試合を王選手の逆転サヨナラホームランで勝った場面です。

3つ目は1977年9月3日ヤクルト戦でハンク・アーロンの当時の世界記録を破る通算756本のホームラン記録を打った場面です。私は当時仙台勤務で、仙台の自宅で家族4人でテレビを見ていました。試合の後、王選手の両親がグラウンドに招待されたのを覚えています。

国民栄誉賞はこの世界記録を契機に当時の福田赳夫内閣により誕生しました。王選手はその最初の受賞者になりました。

プロ野球の歴史-9 巨人のV9 (NO. 1880) (2025年2月16日)

巨人のプロ野球9連覇は1965年(昭和40年)から1973年(昭和48年)年に達成されました。

監督は川上哲治でした。牧野茂コーチに「ドジャースの戦法」を学ばせ、勝利に向かってチーム一丸となる戦いと守備の大切さを取り入れました。

他を寄せ付けない強さは日本の高度成長期と重なっていました。子供の好きなものとして「巨人、大鵬、卵焼き」と言われた時代です。ON(王、長嶋)の全盛期とも重なっていました。そしてオイルショックによる高度成長の終焉と共に巨人の圧倒的な強さも終わりました。

V9の歴史をたどっていきましょう。まず日本シリーズからです。

日本シリーズ

年	対戦相手	勝敗	日本シリーズMVP
・1965	南海	4勝1敗	長嶋茂雄
・1966	南海	4勝2敗	柴田勲
・1967	阪急	4勝2敗	森昌彦
・1968	阪急	4勝2敗	高田繁
・1969	阪急	4勝2敗	長嶋茂雄
・1970	ロッテ	4勝1敗	長嶋茂雄
・1971	阪急	4勝1敗	末次利光
・1972	阪急	4勝1敗	堀内恒夫
・1973	南海	4勝1敗	堀内恒夫

9連覇中3敗が1度もないという圧倒的な強さでした。

レギュラーシーズン

表彰選手

・MVP	王貞治	5回
	長嶋茂雄	3回
	堀内恒夫	1回
・首位打者	王貞治	4回
	長嶋茂雄	2回
・ホームラン王	王貞治	9回
・打点王	王貞治	6回
	長嶋茂雄	3回
・沢村賞	堀内恒夫	2回

- 高橋一三 2回
- ・最多勝 堀内恒夫 1回
- 高橋一三 1回
- ・防御率 金田正一 1回
- 堀内恒夫 1回
- ・最多三振 高橋一三 1回

トピックス

- ・V1 金田投手の最後の大活躍
- ・V2 ルーキー堀内投手の開幕13連勝
- ・V3 移籍高倉輝幸外野手の活躍
- ・V4 ルーキー高田選手の活躍
- ・V5 金田投手の400勝と引退
- ・V6 王選手の8年連続40ホームランの世界記録
- ・V7 4, 5月12連勝、V9での最速優勝
- ・V8 ON以外で唯一の堀内投手のMVP
- ・V9 巨人阪神の最終戦で巨人逆転優勝

表彰選手を見てもONがいなければ、巨人の9連覇はなかったと思います。

長嶋選手はV10がならなかった翌年10月引退しました。昨年が引退50年の節目の年でした。

プロ野球の歴史－10 沢村賞 (NO. 1885) (2025年3月10日)

打者の最高栄誉が三冠王とすれば、投手の最高栄誉が沢村賞です。

沢村賞は戦前日本のプロ野球誕生の時期に活躍し、三度応召され1944年に戦死した伝説の大投手沢村栄治を記念して1947年に創設された賞です。

1950年の2リーグ誕生後は、1988年まではセ・リーグに限られていましたが、1989年からセ・パ両リーグを通じて、その年最も活躍した完投型先発投手に与えられることになりました。

アメリカ・メジャーリーグのサイ・ヤング賞より歴史は古く、サイ・ヤング賞がリリーフ投手も含めていることに対し、沢村賞は先発型投手に限られています。

選考基準が、登板数、完投数、勝利数、勝率、投球回数、三振奪取数、防御率の7項目について数字が決められています。ただ、今は投手の役割が決まっていて投手の完投が少なくなり、勝利数も減ってきています。必ずしも基準通りにはなら

ないようです。

選考委員会は途中で変更になりましたが、今は先発投手OBを中心とする5人の選考委員が受賞者を決めることになっています。

受賞者は原則として年1名ですが、過去2回は2名選ばれ、過去6回は該当者なしという年がありました。

歴史をひも解いてみましょう。

最初の受賞者

- ・別所昭 1947 (南海) (1リーグ時代)

パリーグ最初の受賞者

- ・野茂英雄 1990 (近鉄)

3回受賞者

- ・杉下茂 1951、1952、1954 (中日)
- ・金田正一 1956、1957、1958 (国鉄)
- ・村山実 1959、1965、1966 (阪神)
- ・斎藤雅樹 1989、1995、1996 (巨人)
- ・山本由伸 2021、2022、2023 (オリックス)

2回受賞者

- ・別所昭 1947 (南海)、1955 (巨人)
- ・堀内恒夫 1966、1972 (巨人)
- ・高橋一三 1969、1973 (巨人)
- ・小林繁 1977 (巨人)、1979 (阪神)
- ・上原浩治 1999、2002 (巨人)
- ・斉藤和巳 2003 (ダイエー)、2006 (ソフトバンク)
- ・田中将大 2011、2013 (楽天)
- ・前田健太 2010、2015 (広島)
- ・菅野智之 2017、2018 (巨人)

1回の受賞者は省略します。

沢村賞の選考については不思議なことがいくつか見られます。1981年の受賞者は西本聖 (巨人) でしたが、MVP、最優秀防御率、最多勝利は江川卓 (巨人) がとっています。江川卓は1980年にも最多勝利でした。あれだけ実績を残した投手が沢村賞には1度も選ばれませんでした。

2024年にはMVPと最多勝利を菅野智之が獲得しましたが、沢村賞は該当者なしでした。

選考委員による選考は、選考基準の数字だけでなくほかの条件もあるのではないのでしょうか。